

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K01769

研究課題名（和文）金融教育は金融選択に影響を与うるか？行動経済学的要因を考慮した分析

研究課題名（英文）Does financial education affect financial behavior?

研究代表者

本西 泰三（Motonishi, Taizo）

関西大学・経済学部・教授

研究者番号：90315218

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：金融リテラシーの向上は、人々の合理的な金融行動を促すと考えられてきた。しかし、我々の研究では、人々の金融リテラシーが高まると、一般的な認識とは異なり、リスクをとりすぎたり、借入を行いすぎたり、ナイーブな金融行動をとったりする可能性が高まることが明らかになった。その反面こうした人々は、退職後の計画をしっかりと立てたり、ギャンブルに関心を持たないといった傾向もあった。保健行動においては、人々に特定健診やその後の特定保健指導を受けるよう促すことは、実際の受診行動や保健行動、および健康状態に一定の効果を持つことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

金融リテラシーの向上と金融行動の結果との間に見られる矛盾は、現在行われている金融教育には見直すべき重大な問題がある可能性があることを示唆している。すなわち、金融リテラシーの向上が人々に向こう見ずな金融行動をとらせてしまう場合があることを踏まえ、金融教育を行う際には自信過剰に陥らないよう指導することが極めて重要であると考えられる。従来金融行動に好ましい影響を与えると広く考えられてきた金融リテラシーが、我々の研究では実際には逆の影響を与える場合もあることを示した。この点に学術的な意義がある。

研究成果の概要（英文）：Increased financial literacy has been thought to encourage people to engage in rational financial behaviors. However, our study found that, contrary to popular belief, increased financial literacy increased the likelihood of people taking too much risk, borrowing too much, and engaging in naive financial behavior. On the other hand, these individuals were also more likely to plan for retirement and have less interest in gambling. In terms of health behavior, we found that encouraging people to undergo specific health checkups and subsequent specific health guidance has a certain effect on actual examination behavior, health behavior, and health status.

研究分野：経済政策

キーワード：金融リテラシー 金融選択 金融行動 金融教育 行動経済学 保健行動

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年個人の金融選択領域は、確定拠出型年金・外国為替証拠金取引 (FX)・カードローン・仮想通貨・クラウドファンディングなどに広がりを見せている。高齢者については今後保有金融資産が一層増加することは確実であり、若者については2022年に成人年齢が引き下げられた。このように、消費者が金融取引に直面して、複雑な判断を求められる場面が増えている。こうした中で、金融リテラシー教育によって消費者の合理性を高めることが求められるようになった。しかし行動経済学的要因を考慮した消費者の金融行動分析は十分に行われていなかった。

2. 研究の目的

「生活者の誤った金融選択を防ぐ、教育・情報提供手法とは何か？」という問いに答えることを目的とした。予備的調査では、単に人々の金融リテラシーを高めることを目的とするのではなく、行動経済学的要因から生ずるバイアスに基づく選択を修正することを促す教育を行うことが重要であるという仮説が得られていた。こうした金融行動に関する研究はさらに、人々が金融行動と同様に複雑な意思決定を迫られる、保健行動の分析にも応用されることとなった。

3. 研究の方法

主にオンラインアンケートを通じて独自に集めたデータを用いた、一般生活者・消費者の金融選択の分析を行った。金融選択が人々の選好 (行動経済学的要因を含む) や金融リテラシーなどによって決定されると考え、人々の金融選択に影響を与える要因を包括的に分析した。保健行動の分析に際しては、フィールド実験で得たデータや、特定健診参加者のNDBデータを活用して、準実験的手法を用いた分析も行った。

4. 研究成果

小川・川村・小山・本西・森 (2019) では、近畿地方の小中高校生のオンラインゲームにおける課金方法に関するアンケート調査の結果概要を報告した。調査対象者の課金経験率は約24%であった。また、小中生では男子生徒の方が課金経験率が高い傾向にあった。小中高生の課金行動についてはこれまでほとんど分析されたことはなかった。

Kawamura, Mori, Motonishi, & Ogawa (2021) は、高い金融リテラシーを持つことが退職後の計画などには良い影響を与える反面、過剰借入やナイーブな金融行動をもたらす可能性があることを示した (図1)。これによると、金融リテラシーの高い人々は、老後の準備を慎重に進める反面、ナイーブな金融行動をとる傾向があることが分かった。この結果は、現在行われている金融教育には重大な問題がある可能性があることを示唆している。すなわち、金融リテラシーは人々に向こう見ずな金融行動をとらせてしまう場合があることを踏まえ、金融教育を行う際には自信過剰にならないよう指導することが極めて重要である。

他方、金融リテラシーが十分でない若者は、それ以外の様々な要因にも影響を受ける可能性がある。こうした要因として、お金に対する倫理観や、両親や祖父母の影響を考慮した分析を進めた。山根・阿萬・本西 (2021) は、ウェブアンケート調査で集めたデータに基づき、お金に対する禁忌感が強い学生は、相対的に金融リテラシーが低い傾向があることや、両親や祖父母の学歴や金融リテラシーが、子供の金融リテラシーに影響を与えることを明らかにした。また、お金に対する禁忌感が強い人ほど、金融リテラシーが低いことや、学歴、所得、投資経験の有無はお金に対する心理的態度や金融リテラシーに影響を与えることもわかった。

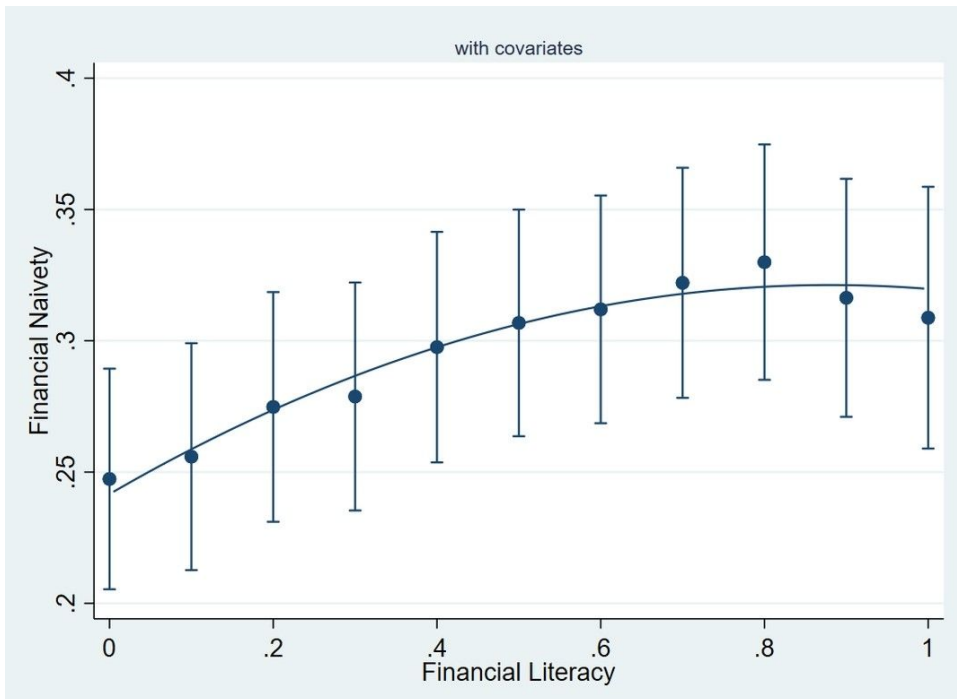


図1：金融リテラシーがナイーブな金融行動に与える影響

Kawamura, Koyama, Mori, Motonishi & Ogawa (2023) は、若者の金融行動に着目し、小中高校生に対するアンケート調査で集めたデータを用いて、オンラインゲームにおける「ガチャ」への課金行動の分析を進めた。これによって、青少年の課金行動に、リスク回避度や損失回避度が一定の影響を与えていることが明らかとなった。

また、金融行動の研究を発展させ、金融行動と同様に複雑な意思決定を必要とし、リスクや将来に対する選好が大きな影響を与えるという点で共通点が極めて多い、保健行動の分析における研究成果も得た。阿萬・本西・山根(2021)は、新型コロナウイルス感染拡大時のマスク値上げに直面した消費者の「公正感」の役割を明らかにした(図2)。

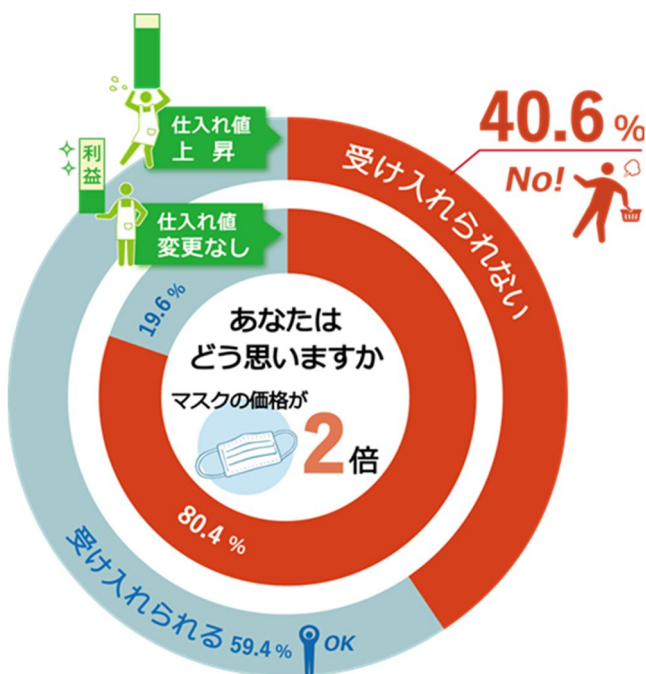


図2：マスク値上げに直面した消費者の公正感

また、Kawamura Mori Motonishi Ogawa (2022)は、フィールド実験の手法を用いて、チラシのデザインが人々の特定健診参加行動に与える影響を分析した。Nakao, Gale Miyazaki Kobayashi, Matsuda Nadarajah, & Motonishi (2023)は、特定保健指導の効果を、NDB データを活用して回帰不連続デザインを用いて分析し、特定保健指導の効果を明らかにした(図3)。

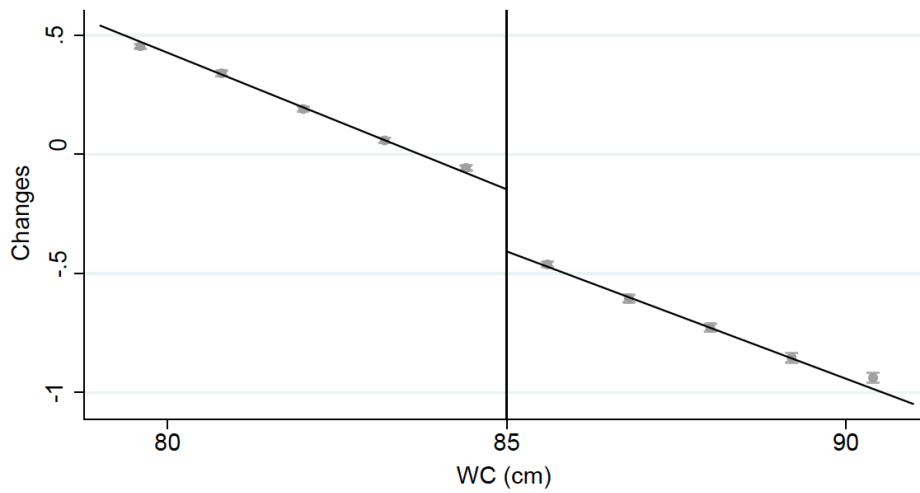


図3：特定保健指導対象者となることが、1年後のウエストサイズに与える影響（回帰不連続デザイン）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Nakao Yoko M, Gale Chris P, Miyazaki Kei, Kobayashi Hajime, Matsuda Ayako, Nadarajah Ramesh, Motonishi Taizo	4. 巻 30
2. 論文標題 Impact of a national screening programme on obesity and cardiovascular risk factors	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 European Journal of Preventive Cardiology	6. 最初と最後の頁 331 ~ 339
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/eurjpc/zwac283	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Kamamura Tetsuya, Koyama Yuhsuke, Mori Tomoharu, Motonishi Taizo, Ogawa Kazuhito	4. 巻 0
2. 論文標題 Loot box gambling and economic preferences: a survey analysis of Japanese adolescents and young adults	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Applied Economics	6. 最初と最後の頁 1 ~ 17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/00036846.2022.2138817	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tetsuya Kawamura, Tomoharu Mori, Taizo Motonishi, Kazuhito Ogawa	4. 巻 15
2. 論文標題 Positive versus Negative Graphics for Increasing Attendance in a Cardiovascular Disease Prevention Program: A Randomized Controlled Trial	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Behavioral Economics and Finance	6. 最初と最後の頁 22 ~ 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11167/jbef.15.22	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Kawamura Tetsuya, Mori Tomoharu, Motonishi Taizo, Ogawa Kazuhito	4. 巻 60
2. 論文標題 Is Financial Literacy Dangerous? Financial Literacy, Behavioral Factors, and Financial Choices of Households	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 101131 ~ 101131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jjie.2021.101131	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根智沙子, 阿萬弘行, & 本西泰三	4. 巻 56
2. 論文標題 大学生のお金に対する禁忌感の意識調査: 金融リテラシー・家庭環境との関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 証券経済学会年報	6. 最初と最後の頁 63-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根智沙子, 阿萬弘行, & 本西泰三	4. 巻 16(2)
2. 論文標題 お金に対する心理的態度と金融知識の関係: アンケート調査の予備的分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 個人金融	6. 最初と最後の頁 82-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿萬弘行; 本西泰三; 山根智沙子	4. 巻 0
2. 論文標題 新型コロナ流行時におけるマスク市場の価格メカニズム - 公正性・金融モラル・リテラシー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本評論社・新型コロナ感染の政策課題と分析	6. 最初と最後の頁 87-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川一仁, 川村哲也, 小山友介, 本西泰三, 森知晴	4. 巻 37
2. 論文標題 日本の小中高生はオンラインゲームにどれほど課金しているのか?: 教室内アンケートを用いた分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 情報通信学会誌	6. 最初と最後の頁 47-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11430/jsicr.37.1_47	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 本西泰三
2. 発表標題 Is Financial Literacy a Dangerous Thing?: Financial Literacy, Behavioral Factors, and Financial Choices of Households
3. 学会等名 日本経済学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

消費者の 金融教育研究 https://sites.google.com/view/consumer-financial-education/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森 知晴 (Mori Tomoharu) (00733057)	立命館大学・総合心理学部・准教授 (34315)	
研究分担者	川村 哲也 (Kawamura Tetsuya) (20643505)	帝塚山大学・経済経営学部・准教授 (37106)	
研究分担者	小川 一仁 (Ogawa Kazuhito) (50405487)	関西大学・社会学部・教授 (34416)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	小山 友介 (Koyama Yuhsuke) (80345371)	芝浦工業大学・システム理工学部・教授 (32619)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	リーズ大学			